

よつ葉だより

2021年
5月3日号
No.650

◆新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金◆



栃木県 860
群馬県 861
茨城県 862



2021年度 新しい職員さんをお迎えしました！

昨年に引き続き今年も2名の、若さ溢れる新入職員を迎えることができました。

大塚楠月（おおつかなつき）さんと小沢優依（おざわゆい）さんです。よつ葉生協の職員を職業に選んで下さる若者の存在は、大きな希望の光です。

新入職員さんへインタビューしました！！

Q よつ葉生協の職員をご自身の職業に選んだ理由は何ですか？

大塚さん：私は大学で栄養学を専攻したのですが、もともと食に興味があり、食の面から人の支えになりたいと思っていました。よつ葉生協の地域に根付いた活動にも魅力を感じて、入協しました。



大塚楠月さん 小沢優依さん



「ドライ品のセットラインでの研修」

小沢さん：栃木県が大好きで地元で就職したいと願っていました。また、高校生の時にボランティアで子どものまちづくりの活動に参加して、子どもたちと豚汁を作った時に、材料など提供していたよつ葉生協に「すごいなあ」と好印象を持ったこともきっかけです。

Q 今後の抱負をお聞かせください。

大塚さん：組合員さんのためにできることを何でも自分で見つけて、実行できる職員になりたいです。

小沢さん：仕事を通して人と地域を繋ぐ人になりたいです。支え合うこと、たすけあうことで生まれる相乗効果を促進したいです。

よつ葉生協が掲げる理念をしっかりとご自分の思いに重ねていらっしゃるお二人の言葉に、とても嬉しくなりました。お二人は現在研修期間中。ドライ品のセットラインを2週間、その次は組合員さんへの配送などの研修も予定しています。心からエールを送ります！

（組合員活動常任理事 堀）

入協2年目の先輩も頑張っています！

坂田さん（商品部）

入協当初の私は食品の「安心・安全」が表面でしか分かっていませんでした。しかし、商品知識を学んでいくうちに自然と「安心・安全」が具体的に顕在化し理解を深めていくことが出来ました。これからも食品に対する知識を高め、よつ葉生協の職員として組合員

の皆さんに「安心・安全」をお届けできるように努めていきたいです。



「商品評価委員会にて商品を説明中」

高橋さん（普及推進部）

普及推進部で、個人宅やお店などを訪問しよつ葉生協の安心、安全な商品のPR活動をおこなっています。はじめは緊張と不安で上手く話すことができませんでしたが、今ではたくさんの方とお会いし、よつ葉生協の良さを自分の言葉で伝えられるようになりました。まだまだ毎日が勉強ですが、先輩方に教えていただきながらこれからも頑張っていきますのでよろしくお願い致します。



我が家の防災 委員会に所属している組合員さんに聞いてみました～その3～



東日本大震災があつて以来、靴を断捨離して、下駄箱のスペースに備蓄用ペットボトルケースと防災セット一式(よつ葉のチラシで購入した物)を備えています。久しく防災セットを開けていなかったの確認したら、賞味期限がとくに切れていた保存食...乾電池も使用期限が切れていました。年一回は点検する事にし、缶詰などの食品類は台所でストックし、回転する方式にしようと思います。

それから、ベッドの近くに防災スリッパ(ガラスの破片を踏んでもケガをしないように)を備えています。

(宇都宮南委員会 北爪さん)



防災に関して特にこれと言った工夫はないのですが、とりあえず水の確保と、水と同じくらいトイレも使えなくなると辛いと聞いているので、防災用のトイレを購入しました。あとはガスコンロや防災用の保存食、缶詰めなど多めにストックするようにしています。停電を考え防災ラジオも用意していますが、車で携帯を充電でき、TVなども見られるので、ガソリンは半分以上減ったら入れに行こうと思っています。

(栃木委員会 古橋さん)



我が家の防災について夫婦で話し合っているのは、本当に本当に命に関わるような緊急避難の時には、猫2匹 犬1匹 そして、自分たちの命だけを守ること。何も持ち出さないで逃げる、ということにしています。非常持ち出し袋(玄関に置いてあります)は用意していますが、まずは命が最優先で。

(つくば委員会 黒澤さん)



防災、ローリングストック、うちはついついノータッチになってしまいがちですが、よつ葉で特集があったときに、買い足したり使ったりしています。

いつもはテントやシュラフ、山用のガスボンベやコンロ等の登山セット、アルファ米等多少の食料が入った登山リュックを玄関にかけてあります。水は玄関に、ペットボトルを箱買いしたものと、軒下に水道水をペットボトルにためたものを30ℓ位置いています。

(鹿沼委員会 宇梶さん)



大きな地震があるたび、防災対策をしっかりしなければと思いつつながら大したことが実践できていません。生協のカタログで紹介されていた防災グッズの入ったリュックを購入し、玄関先に置いて対策した気になっていますが、実際大きな災害があったときには全然足りないと思っています。

今年は東日本大震災から10年の節目の年ですね。改めて我が家の防災対策を家族で話し合わなければと思っています。

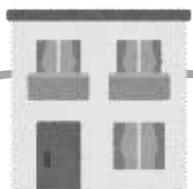
(つくば委員会 高橋さん)



うちは外の物置に長期保存の水が6本と、玄関の近くに防災リュックを用意して、ラップ・皿・袋・手袋・手回し発電のライト付き防災ラジオ・毛布類等、色々入れてあります。

リュック1つに一箱ずつマスクを入れておいたので、マスクが無くて世の中が困っているときにも慌てなくて済みました。

(宇都宮南委員会 秋山さん)



うちは、猫を飼っています。基本的に家が潰れていなければ、家で避難させます。エサ、ペットシート、ケージ、水を備えています。

また、くらはで回転備蓄の話を見て缶詰、レトルト、乾麺類、フリーズドライのみそしるを、常にストックしています。



いつも水を買わないので、キャロットにのる長期保存の水と、防災食セット避難用リュックのそばに置いています。玄関のそばの物置に入れています。賞味期限をチェックするタイミングは、9月1日の防災の日の付近にしています。家族で避難所の確認を災害が起きそう天気予報のときには、もう一度確認しています。

(宇都宮南委員会 小田切)



阪神淡路大震災の時のニュースで、テレビが飛んで寝ていた1歳の女の子にあたって亡くなったニュースを見て、寝室には何も置かなくなりました。我が家の娘と同じ年齢だったのでとても辛いニュースでした。子供部屋にも必要最低限の机とベッドくらいです。スリッパと懐中電灯も枕元にあります。

いつどこで地震や災害に合うかわからないので電車などに乗る時には水分、荷物にならないキャラメルやチョコレートなどカロリーの高いもの、マスク、アルコール消毒を持っています。靴はフラットな歩きやすいもので。(車で移動する時は車に入れています。)石油ストーブも暖をとるのに東日本大震災の後に購入しました。

よつ葉文庫 新刊の紹介



NO.1274 『どう考える？種苗法 タネと苗の未来のために』

農文協ブックレット

昨年よつ葉だよりで何度か取り上げた「種苗法改正」。昨年5月の国会で賛成、反対双方で激しい議論が交わされて継続審議となりましたが、昨年12月に種苗法の一部を改正する法律として成立しました（この4月から施行）。この本は、その継続審議のさなかに編集されたものです。品種の育種農家の育成者権の強化をはかり、登録品種を自家増殖する際の許諾制（自家増殖は原則禁止）などが法律に盛り込まれましたが、議論の論点が生産者、種苗会社、行政など多様な論者によって整理されているのは、国民の関心の高まりを受けたものでしょう。

作物を栽培し食糧としてきた人間の歴史は、タネや苗を大切にしてきたからこそ。この本を通じて、命をつなぐタネ、農業への関心を深められるようにと思います。

(理事 三輪)

NO.1275 『自立力を磨く お金と組織に依存しないで豊かに生きる』

藤村靖之 著 而立書房（那須町 非電化工房代表）

藤村さんは工学博士です。2011.3.11の東京電力の放射能事故後、放射能線量の測定器が手に入らず、価格もどんどん高くなっていきました。藤村さんが作ってくださるかもしれないと聞き、無理にお願いし、材料費だけで制作していただきました。「那須希望の砦」を立ち上げ、不安の中で信頼できる情報を地域の方々に発信し続けていました。よつ葉生協でも、勉強会をしていただいたり、情報をいただくことで落ち着くことができました。

藤村さんは今までも『月3万円ビジネス100の事例』など、実際に行動していることを何冊も出版されています。

今回、「文明の転換と資本主義の破綻」「お金と組織に依存しないで豊かに生きる」「愉しく支出を減らす方法」「楽しい自給自足」「楽しい仕事の生み出し方」「一番大切なのは仲間」を318頁にまとめています。写真も入り、項目ごとにまとまっていますので、次から次へと「愉しく」読むことができます。コロナ禍での息苦しい生活の先に、「愉しみ」を予想することができそうです。すぐ実行できることが目につきます。「那須の非電化工房ってどんなところ？」と思いをめぐらすだけでも愉しくなります。

(会長 富居)



本ごころ

本を読んだ組合員さんの感想をご紹介します。

No1241 『知ってびっくり 子どもの脳に有害な化学物質のお話』

水野怜子 著

化学物質は以前から気になっていて、ヘアカラーもしない、洗濯の柔軟剤は使わない、洗剤も粉せっけん類を使用したりしていました。この本を読めば読むほど化学物質のこわさを思い知らされました。が、日常生活を送る上で避けられない現実もあり、ただ愕然としている感じです。トイレトペーパーはほとんど香り付きで、無香料選択が難しく困っています。他にもイロイロ困っていますが。

(鹿沼地区 今井さん)

No1272 『知ってほしい食品添加物のこと』原英二 著

今まで気になっていた食品添加物の、知らなかったビックリする事実と、日々、口にしてきた食品に含まれていたことに、後ろめたくなる気持ちになりました。

親が意識して、裏表示を見て、選んで買い物する姿を、子どもにも見て、大人になってもらいたいと改めて感じました。

(前橋地区 小林さん)



※くらは「毎日の必需品雑貨コーナー」で注文できるトイレトペーパー、芯がなくごみも減り、無香料でおススメですよ！

いつもたくさんのご感想をいただきありがとうございます。

お悔やみ申し上げます

小山市で農薬不使用米を作っていた、稲作農家中島輝雄さんが亡くなりました。71歳でした。

よつ葉生協にとって中島さんは、ミルキークイーンでおなじみでした。2016年秋に、産直委員会の組合員さんとお訪ねした時、お手製の鳥よけテグスが張り巡らされた5反もの広さの田んぼを案内していただき、「(ご自身が)健康を損ねて、農薬が人体に害があることを身をもって知ったから、自分で作るお米も農薬を絶対に使わないです」と、静かに熱意を語ってくださいました。

作る立場からだけでなく、次の世代への影響を考えて、安心して食べられるものを届けたいという一心で、農業に取り組んでこられた方でした。残念でなりません。

心からご冥福をお祈り申し上げます。(理事 三輪)



第11回 定例理事会報告 4月14日(水)

組合員数(3月20日現在)	加入	脱会	純増	組合員
	111人	95人	16人	26,109人

《報告・協議事項》

(1) 「新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金」の期間延長について

昨年、10月から取り組んでいる「新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金」について協議されました。昨今の感染再拡大を鑑みて、貧困格差の拡大や社会的分断など懸念され、ワクチン接種についても時期が不透明であることを考慮すると、暫くの間は募金活動を継続した方が良いと判断しました。期間は、2021年度末(3月3週)まで取り組みます。

(2) 2021年度、組合員活動計画について

組合員活動テーマ

「逢えなくても繋がってるよ!よつ葉のわ ~つなごう心のきずな~」として、農業体験やオンライン Zoom 交流会など、コロナの状況を見極めながら随時実施していきます。農業体験については、組合員参加は7月以降からを検討しています。それまでの期間は、理事で対応します。また、各委員会活動については委員会会議のガイドラインを

設け、再開は、自主性を重んじるため各委員会で検討してもらうように決めました。

(3) かみのかわ有機農業推進協議会について

2006年の有機農業推進法により、かみのかわ有機農業推進協議会は立ち上げられ多くの活動を展開してきましたが、当初の補助金の受け皿としての役割が終了。また、稲葉光國さんの逝去に伴い、母体である民間稲作研究所の傘下に入り、部会として活動を継続することを決めました。名称については、行政向けで補助金の申請もあり、協議会としていましたが、研究所の下部組織となるため、行政に対しては研究所名で対応していくので、団体名を「とちぎ有機の会」として活動していきます。

(4) 2021年度、春の全体研修会について

2020年度の総括及び2021年度展望について、各部門責任者参加のもと開催しました。昨年からのコロナ禍により、職員・社員・理事、全体での開催は見合わせています。

新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金報告(4月3週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの助けあいの気持ちが広がっています (単位:円)

栃木コロナ支えあい基金 (860番)	6,500
群馬コロナウイルス対策募金 (861番)	4,900
茨城誰かのために募金 (862番)	1,200
合計	12,600

共同購入注文書の該当番号に数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口100円の募金になります。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告(4月3週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位:円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	6,400
震災孤児を支援する募金 (910番)	19,000
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	7,900
合計	33,300

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側「企画商品」内の「復興支援募金」をクリック。一口100円の募金になります。

よつ葉太陽光発電報告

○2月25日から年3月28日(32日間)の太陽光発電量は、17,931 kWhでした。CO2削減量は5,639kg(18Lの灯油缶を237本燃焼した量)です。

〈よつ葉だより休刊のお知らせ〉

ゴールデンウィークの間、印刷屋さんお休みのため、5月10日のよつ葉だよりは、お休みさせていただきます。よろしくお祈り致します。



●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮 1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <http://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yahoo.co.jp



ホームページ



Facebook



Instagram

